

善徳

七三四一〇〇〇四

広島市南区宇品神田四一十一一八

善徳寺

電話 〇八二一二五一六〇二九

日 6 月 4 年 1 成 平

新元号「令和」が発表されて、日本中が、新しい元号を歓迎する空気に包まれました。一つの区切りを迎えて、又新しく世の中を作

って行くというような、活力が生まれる気がします。又、ちょうど今、新入学

の時期でもあり、四月はなんとなく、緊張と希望が入り混じったような空気を感じます。新入学生の初々しい制服姿を見ると、自分の学生時代が思い出されます。学生の頃は、どうしても自分の

短所が目について、世界中で一番ダメだという気分になったり、逆にいいことがあると、有頂天になったりしたものでした。何かと人と比べてしまう自分がいたと思います。その後、人生経験を積み

しているうちに、人にはそれぞれ備わった能力というものがあり、それを最大限生かしていけばいいのだと思うようになりました。

釈尊の弟子に、パンタカという人がいました。兄弟でお釈迦様の弟子となりましたが、優秀な兄に対して、弟のパンタカは頭が悪く、自分の名前も忘れ、名札をつけてもらっていたほどでした。

兄から「おまえは修業してもムダだから家に帰れ」と言われたところ、お釈迦様が、「帰らなくてもいいから、毎日掃除をしろ」といって、箒とちりとりを与えました。

それから「パンタカは掃除しか能がない」と、皆に馬鹿にされながらも、毎日掃除をして清めることを繰り返すうちに、諸行無常の道理や、心も毎日清めなければならぬことに気づきました。そし

てパンタカは弟子の中で一番早く悟りを開いたと言われています。

パンタカが兄のように勉強するのは無理かもしれませんが、逆に兄がパンタカのように掃除ばかりするのも無理だったでしょう。

お釈迦様は「応病与薬」といって、その人その人の資質に応じて法を説かれました。

又、阿弥陀如来の眼差しから見れば、人間の能力の違いなどないも同然でしょう。私たちから猿をみれば、似たり寄ったりに見えるようなものです。皆同じように迷いの真ただ中にいるのです。

そんな私たちをなんとか救おうと、阿弥陀如来はいつも働いてくださっています。

「今救おうとしているのはあなたなんだよ」という声を聞き、阿弥陀如来が何もかも受け止めてくださっていることに安心して、毎日を暮らしていきたいと思います。

善徳寺行事案内

宗祖降誕会法要

五月二十三日(木) 昼席夜席

二十四日(金) 朝席昼席

三時よりお齋

講師 南蟹屋町 善通寺

古川 智先生

常朝事

毎朝七時より八時まで

正信偈勤行と経典解説

現在教行信証解説中

花見報告

四月二日に、元宇品樹心庵で平成最後のお花見をしました。前日は花冷えでしたが、当日はお天気もよく、満開の山桜が風に散って、美しい

春季永代経法要

四月十一日(木)

四月十二日(金)

講師 三原市久井町 小島 照行 先生

昼席一時より勤行
夜席七時半より勤行
朝席八時より勤行
昼席一時より勤行

講師 三原市久井町 小島 照行 先生

十日(水) 午後一時より おみがきをします。

お手すきの方はお手伝い下さい。



花吹雪が見られました。トンチンカチで楽しいひと時を過ごしました。役員の方々には、お世話いただきありがとうございました。

平成三十一年度後期
回忌法要案内(敬称略)

一周忌(平成三十年寂)

七月 石地義大
八月 白根茂 高田壽萬代
吉嶋貞子 岡本壽子

九月 冲山知佐子 村上敏枝
長村俊一 大下保

十月 石橋静枝 溝田チヨコ
水岡宮乃 中光サツエ

十一月 土肥久彦 井上昌幸
大田ヤエコ 喜多恵美子

十二月 伊木壽満子 竹本静男
森本キクエ 西村トシコ

三回忌(平成二十九年寂)
七月 細川博己 紫垣朝夫

八月 大野美智子 村岡澄江
宮下ミサヲ 上本昭子

九月 小路毅 柄島秀樹
十月 原田サチヨ 古田房子

十一月 井上幸雄 村上正人
十二月 佐々木千枝子

前岡千鶴子 大原美代子

写真 中土井 弘子



七回忌(平成二十五年寂)
七月 峠直美 二又篤太郎

八月 永易ヨシミ 小西信之
柴崎敏行 浅倉サチエ

九月 瀬田浦子 中尾キヨノ
梶原克之 増谷芳之

十月 大成猛 中土井克己
植村英一 濱野徳雄

十一月 野村リメ 高瀬景子
上本賢太郎

十二月 藤巻かおり 榎木八重子
福田考 冲律子

北恵満喜枝 柴崎恭一
市場恵美子 岡田ヨシエ

十三回忌(平成十九年寂)
七月 島本憲 島山實 瀧本實

大原喜美子 岩井信樹
藤本ユウ 石原かおり

八月 北榎シマ子 岡田忠義
上木クワエ

九月 山野有三 勝井達夫
乙井ミツエ

十月 西元信廣 横川テル
新川時和 大戸博和

十一月 半田良子 中土井トキエ
海野哲治 土肥弘明

十二月 瀧戸孝輝 日浦トシエ
瀬木邦司 小早川政信

平野豊 濱田キヨコ
大澤千鶴子 棟本ミキエ

樋口和康 小島武文
十七回忌(平成十五年寂)

七月 藤本文雄 正月谷文江
西川富雄 藤岡勇

八月 熊谷イツヨ 多田友也
向谷正吉

九月 寄木恭子 久保きく
藤岡博 池田一義

福井邦仁江 池本満水
小川長次郎

十月 瀧田達太郎 山内ハルミ
十一月 梶岡ツヤコ

十二月 岩見三高 藤井由紀

二十五回忌(平成七年寂)
七月 山本一

八月 吉田昭悟 倉本シゲコ
上地キヨコ

九月 岡本陸男 梶浦チヨコ
桑名マスエ

十月 服部政子 原田寛水
太尾田正信 石田定弘

十一月 奥田ウキヨ 川原章
福本大二 福本ヨシエ

十二月 喜多米一
原田シゲ子 増岡フシミ

三十三回忌(昭和六十二年寂)
七月 新原文市 塩飽ヒデ子

牧文子 浜中幸盛
八月 久保喜三男 下川肇

九月 橋野敏子 増田修三
藤井キシノ 池田正治郎

十月 福傳照子 松本恒子
十一月 麻生イサヲ 市村進

十二月 北後ヨヲ 石原傳吉
和原昇 堀内美津子

五十四回忌(昭和四十五年寂)
七月 高畑ユリ子 光岡邦夫

紙本寛蔵
九月 空本博 中野孝治

福傳サカヨ
十一月 上本伊三郎 藤井静江

十二月 福田政次郎 岩崎スケ
福傳佐藤次

敬 弔

お浄土に参られた方を謹んで
お知らせいたします。

三月十三日寂 神田三丁目

米本順一様 行年八十三才

三月三十日寂 東六丁目

竹井 睦子様 行年八十五才

善徳寺墓地案内

元宇品墓地 海側六十万円

山側八十万円

納骨壇 一区画二人用四十万円
二区画四人用六十万円

大谷本廟分骨 一人用二万円
四人用五万円

大型 十万円

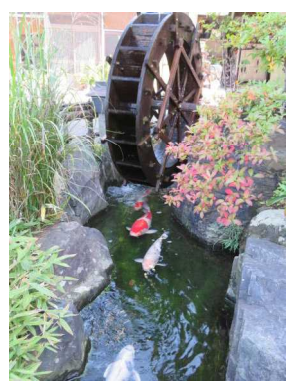


写真 瀬田 晃